

未来へつなぐ vol.17 | 泉名 宣男 |

さいたま商工会議所 街づくり・観光委員会 委員長
大宮西口共同ビル(株) 代表取締役

新幹線開業の年に生まれた大宮西口の顔 今までも、これからも街の発展を見守る

さいたまを代表する繁華街・大宮駅。その西口で40年の歴史を誇る「大宮西口DOM^{ドン}ショッピングセンター」の管理運営を担うのが、大宮西口共同ビル(株)です。街を愛する先人たちが築いたビルを末永く守り継ぎ、にぎわいを創出すべく奮戦する泉名社長にお話を伺いました。

大宮駅西口が現在のようにスマートで繁華な街になったのは、1982年に東北・上越新幹線が開業したのが転機でしょう。これ以前、私の生家はまだ開発前の雑然とした西口の一角で、文具店を営んでいました。プラモデルなども扱っていたので子どもたちから人気があり、幼い頃はちょっと自慢だったものです。

その後、開発を機に婦人衣料品店へと業態を変えて、DOMショッピングセンターに出店。私は大学卒業後すぐに2店舗目となる、大宮そごうのショップをまかされて、社会人として歩みだすこととなります。

● 地区の人々が共同で建てた ● 西口最初の大型商業施設

さて話は遡って、新幹線開業前のこと。大宮駅前の土地区画整理事業として、我が家を含む区画の地権者は、共同で大型商業施設を建設することになりました。私はまだ高校生で、計画に携わっていたのは父でしたが、小さな店や家でぎゅうぎゅう詰めだったご町内が、ダイナミックに生まれ変わる様子を、ワクワクと眺めていたのを覚えています。

新幹線開業と同じ年に誕生し、「大宮西口DOM^{ドン}ショッピングセンター」と名付けられたビルには、計画時からダイエーと丸井の入店が決まっていました。ですから、D(ダイエー)+O(大宮)+M(マルイ)の頭文字を組み合わせた名称なのです。人気のファッションブランドが集まる丸井と、食品・日用品がなんでも揃うダイエー。そして多種多様な専門店が集まるこのビルは、大宮西口発展の先駆けともいえる存在で、いつも多くのお客様でにぎわっていました。

時代にあわせて店舗の入れ替えや業態の変化などはありませんでしたが、現在も大宮西口を代表する大型商業ビルであると自負しています。また、ダイエーとマルイは今でもショッピングセンターの顔として当ビルを支えてくれる大切なパートナーです。

● 自分たちの街とビルを守るため ● 「自分ごと」として関わり続ける

現在私が6代目の代表を務める大宮西口共同ビル(株)は、DOMショッピングセンターを管理・運営するために地権者の皆

様が共同で立ち上げた会社です。

2011年に家業の衣料品店を閉めることになり、さて今後なにをしようと思っていた時、世代交代を考えていた当時の代表から声がかかりました。衣料販売から不動産管理という、まったく畑違いからの転職になりましたが、これもなにかのご縁。愛着ある街とビルのために頑張ろうと、宅地建物取引士の資格をとって飛び込んでいきました。

当社の主な業務は、DOMショッピングセンターの健全な維持管理と、地権者の生活を支えることです。珍しい事例かもしれませんが、この会社は100%地権者の持ち株で、かつ役員は地権者の中から選ばれた方々で運営されています。自分たちのビルと街を、自分たちで守り、末永く発展させる。そのための会社なのです。

設立から40年以上が経ち、世代交代なども増えてきましたが、権利を承継した人にも「自分ごと」として事業に参画していただく。この想いを伝え、事業の舵取りをするのが、私の大きな役目です。

● 歴史とノウハウを次代につなぐ ● 大宮のにぎわい創出に貢献

現在のところさいたま市は全国でも数少ない、人口が増え続けている自治体です。大宮はその中枢地区の一つであり、駅は一日50万人もの乗降客数を誇ります。

DOMショッピングセンターもこの恩恵に大いに預かっていますが、だからといって殿様商売はしてられません。時代にあった魅力を持ち、人々を惹きつけ、愛される場所であり続けるためにも、より広い視野で地域を、社会を見つめていかななくてはと思っています。

コロナ禍がやや落ち着いて、今年は久しぶりの夏祭りも復活しました。嬉しい反面、中断期間中に失われてしまったノウハウがたくさんあり、開催準備にはとても苦労しました。

大宮と共に発展してきたこのビルが、これからも大宮のにぎわい創出に貢献していくためにも、歴史と想いを伝え、堅実な経営ノウハウを次代につなぐこと。それが私の使命だと考えています。

泉名 宣男 (いずみな のぶお)

1964年、さいたま市大宮区生まれ。大学卒業後、家業である婦人衣料品店(有)チェリーボブに入社。同社の廃業後、2011年に大宮西口共同ビル(株)に入社。2020年、6代目の代表取締役に就任。2022年からさいたま商工会議所街づくり・観光委員会委員長。



耐震工事や改装を加えながら、西口の顔として40年の歴史を刻む。



この写真は1975年(昭和50年)頃、土地区画整理前の大宮駅西口周辺の様子。